

熊本大学シラバス

基本情報

授業科目名	(日)	TDM演習
	(英)	Practice of therapeutic drug monitoring

時間割コード	6430	開講年次	D3年
学期		曜日・時限	
講義題目	TDM演習		
担当教官	平田純生		
科目コード		科目分類	
選択/必修	選択必修	単位数	2

詳細情報

授業形態	パワーポイントおよびそのプリント等を用いた講義、Learn through discussion
授業の目標	薬物治療の個別化のためのツールとしてTDMを用い、薬物療法の適正化に貢献する際に必要とされる高度の知識(各種状況時の体内動態変化と臨床効果、副作用などのモニタリング、薬物相互作用、血中濃度解析、薬物濃度測定法など)を習得する。さらに科学的かつ能動的な情報発信方法を身につけ、個々の患者に応じた最適な投与計画を立案し、投与後のモニタリングによって最適な薬物療法を提供できることを目標とする。
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.TDMと投与设计 2.PK-PDと抗菌薬適正使用 3.腎機能の正しい評価法 4.腎機能に応じた薬物の投与设计とその考え方 5.アミノグリコシド系抗菌薬のTDM 6.グリコペプチド系抗菌薬のTDM 7.抗てんかん薬のTDM 8.免疫抑制薬のTDM 9.ジゴキシンのTDM 10.循環器疾患治療薬のTDM 11.相互作用の理論予測と投与设计 12.母集団解析とその実際 13.薬物適正使用と薬剤師の役割 14.TDM解析ソフトの利用法 15.症例解析
キーワード	TDM(治療薬物モニタリング)、臨床薬物動態、PK-PD-PGx、血中薬物濃度解析、薬効の個人差、腎障害時の薬物投与设计
テキスト	適宜プリントを配布する予定
参考文献	<p>伊賀 立二、乾 賢一：薬剤師・薬学生のための実践TDMマニュアル 木村利美：図解 よくわかるTDM—基礎から実践まで学べるLesson125 篠崎公一、他(監訳)：薬物動態学と薬力学の臨床応用—TDMの正しい理解のために— 平田純生、古久保拓(編) Q&Aで学ぶTDM活用ガイド 林正弘、谷川原祐介(編) 生物薬剤学改訂第2版 加藤隆一(著) 臨床薬物動態学—臨床薬理学・薬物療法の基礎として</p>
評価方法・基準	演習への出席状況、プレゼンテーションや討論の適切さを総合的に評価する。
履修上の指導	受動的に受講するのではなく、能動的に参加して欲しい。質問はいつでも受け付ける双方向性の講義にしたい。
事前学習	
事後学習	